

# さよなら1957年

今年もあますところあと僅か。

今しも 昭和三十二年に

別れを告げようとしています。

——建設あり、災害あり

起伏の多かつたこの一年――

だが そこには

県民の総力で着実に積みあげてきた  
幾多の業績があるのです。

いま、師走のあわたゞしさの中に

静かにふりかえれば

その中から

新しい年への希望も

みいだし得るのではないのでしょうか。



## 「計画建設」の一カ年

積みあげてきた大きな実績

☆ ☆ ☆ ☆  
県は過去数年間、第一次第二次の産業振興計画と総合開発計画とを推し進めてきましたが、一昨年これを発展充実させたものとして、この二つを一体化した「計画建設」を、県政の基本方針として強く打出してきました。

即ち、財政再建の途上にある本県としては、その厳しい条件下で最大の効果を挙げるため、重点的に道路、港湾、治山治水事業をはじめ、電源開発、臨海工業地帯の造成など、いわゆる産業発展の基礎となる施設の整備と建設を推し進めてきました。又、水稲早期栽培の奨励をはじめとする適地適作によって、多角的な農業の発展をはかり、農工併進による県の産業構造の近代化をすゝめ、最終目標では県民所得を昭和四十年において、二十八年度の一・五五倍まで引あげようとする計画であり、今年はその二年目にあたつたわけで、それぞれ大きな実績を挙げた極めて重要な一カ年でした。これと共に、新しい村づくりとして県の「計画建設」と相互に緊密な連携を保ちながらこれも第二年目を迎えた「新市町村建設計画」と「新農山漁村建設総合対策」も、それぞれ大きな業績を残しています。

前者では、昭和二十八年から始つた町村合併で、三二〇の市町村が今年の十月末には一〇九市町村にまとまつて、一応の目標を達成しました。一方このようにしてでき上つた新しい市町村の建設は、昨年にひきつゞいて行われ、十七の市町村がこの計画の指定をうけたのはじめ、各市町村が本格的建設の段階に入つた年として、ま

左岸よりみる市房ダム工事現場 (下の道が現在のバス道路)



ことに意義ある一年でした。

これと併行して、後者では、内外の情勢に依じて独り立ちできる農山漁村の建設を目標として、昨年度と今年度指定の四〇地域が産業施設の充実に邁進してきました。

又、産業面の建設に対して、県民の精神的な裏づけとしては、「新生活運動」が県下十三カ所のモデル地区を拠点とし、一大県民運動となつて全県下に拡がってきましたが、古いろう習を打破し

て新しい生活態度を打ちたてようとするこの運動は、新しい町づくり、村づくり運動の精神的な柱となつて、生産面とも直接つながり、県民の生活上に大きな役割を果してきています。

こうして、この一年間は「計画建設」の諸施策が、新しい町づくり、村づくりの運動と密接に結びつきながら行われ、着実に業績を積みあげた年であつたと云えましょう。

## すゝむ市房ダム工事

県営発電の基礎調査も

★ 今年には新年早々から四月にかけて、全県民の世論をわかせたものに市房県営発電の問題があります。

★ 球磨川の上流に建設省が四〇億円をかけてつくる市房ダムは、洪水防止、かんがい、発電という三つの目的をもつ、いわゆる多目的ダムなのです。県は、多目的ダムの意義からしても、その発電は県民の福祉のためにぜひ県営でやらねばならないと打出し、一月にはその推進対策本部を設けましたが、三月には県内各界の代表によつて県営発電期成会も結成され、県民の世論の力によつて遂に四月の電源開発審議会で「県営」という事に決定し、六月二十九日には現地においてダムの起工式がおそそかに挙行されたのです。

★ 着工以来半歳、建設省のダム工事に併行して、県の電気部門の基礎調査も開始されていますが、

緑の山肌は褐色に削りとりられ、削岩機やブルドーザーのウナリが冬の峰々にコダマしています。

★ 山の中腹には道路のつけかえ工事や工事用道路の新設が進み、仮排水トンネルも貫通しました。家屋移転も予想以上に順調に進み、二〇九戸のうち残存家屋は移転先を探している十二一三戸だけという進み方です。附近一帯には県や建設省の現場事務所、職員住宅或は労働者宿舎や商店が建ち並び、今年には静かだつた水上村の正月も、今度はたくましい建設の轟音の中に迎えるわけです。

★ 又、県営本発電所の売電料もきまり、去る九月十六日九州電力との間に仮調印式が行われた事も、県営発電の歩みの上で忘れてはならないできごとでした。